

保健師助産師看護師国家試験の変遷について

表 1 保健師助産師看護師国家試験の改善経過

名称	検討会(改善部会)を受けた改善事項及び改善時期
国家試験の改善に向け検討する会(医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会) (S56. 8～S60. 6) <中間意見書(S60. 6)>	検討会(改善部会)を受けた改善事項及び改善時期 <目的> 「時代が求める看護職としての能力を問う」ための国家試験内容への変革 <検討中に改善されたこと> ●看護婦国家試験について ・「指定規則」に応じて試験科目ごとの出題数を変更(S57春から実施) ・状況設定問題の導入(S58春から一部実施) ・主要科目の出題目標と範囲の明確化【出題基準の試行】(S59春から実施) <改善が提案された事項> ●国家試験の実施を年1回とする ・保健婦・助産婦(S63から実施)、看護婦(H2から実施) <今後検討を要する事項> ●保健婦・助産婦国家試験にかかる主観式問題の採点法の工夫及び状況設定問題の導入 ●試験問題のプール制導入
医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会 (～S63. 4. 14) <報告書(S63. 4. 14)>	●客観式多肢選択問題(一般問題)の出題形式の変更(H2から実施) ・五肢択一 → 四肢択一 ・解答時間1問90秒 → 60秒 ・(看)出題数150問、総解答時間2時間30分 ・(保・助)出題数75問、総解答時間1時間15分 ●看護師国家試験における状況設定問題の導入 ・解答時間1問2分 ・出題数60問、総解答時間2時間 ・午前は一般問題、午後は状況設定問題 ●出題基準 ・保健婦助産婦看護婦国家試験出題基準の適用(H2から実施) (出題基準は4年ごとの見直しが必要) ●完全プール制の導入は現時点では不可能。既出問題の一部を洗練し、問題をプールし使用することは適当
医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会国家試験検討委員会 (H6. 11. 18～H7. 3. 30) <報告書(H7. 3. 30)>	<目的>国家試験の合格発表を早期に行うための検討 ●国家試験の実施時期を1週間繰り上げ(H9から実施) ●卒業(修業)証明書の提出期限は3月中旬に繰り上げ(H9から実施) ●保健婦・助産婦国家試験の主観式問題を客観式問題(状況設定問題)に変更することを検討

<p>医療関係者審議会保健婦 助産婦看護婦部会国家試 験検討委員会 (H7. 8. 30～H8. 3. 26) <報告書(H8. 3. 26)></p>	<p><目的>保健婦・助産婦国家試験の状況設定問題導入の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保健婦・助産婦国家試験の主観式問題を状況設定問題に変更(H9から実施) ・解答時間1問2分 ・出題数30問、総解答時間1時間
<p>医道審議会保健師助産師 看護師分科会保健師助産 師看護師国家試験制度改 善部会 (H13. 7. 10～H14. 3. 29) <報告書(H14. 3. 29)></p>	<p><目的></p> <p>「時代が求める看護職員としての能力を問う」ための国家試験制度の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ●応用力を問う問題を導入するため試験時間を延長(H15から実施) <ul style="list-style-type: none"> ・一般問題1問60秒 ・応用力を問う一般問題1問90秒 ・保健師・助産師国家試験 総解答時間2時間20分 ・看護師国家試験 総解答時間4時間45分 ●看護師国家試験における必修問題(30問)の導入(H16から実施) <ul style="list-style-type: none"> ・出題数及び時間の延長：出題数240問、総解答時間5時間15分 ・合格基準：必修問題は絶対基準、その他は相対基準 ●試験問題の公募及びプール制の導入 <p><今後検討を要する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護師国家試験における禁忌肢の導入の検討 ●保健師助産師国家試験の改善(必修問題の導入の可否等を含めて検討) ●定期的に部会を開催し、試験制度の評価・改善方策を検討することが必要
<p>医道審議会保健師助産師 看護師分科会保健師助産 師看護師国家試験制度改 善部会 (H19. 9. 1～H20. 3. 14) <報告書(H20. 3. 24)></p>	<p><目的></p> <p>「時代が求める看護職員としての能力を問う」ための国家試験制度の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保健師助産師看護師国家試験の必修問題について <ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験 出題基準の改定の時期に併せて30問から50問に変更(H22から実施) ●保健師助産師看護師国家試験の出題形式について <ul style="list-style-type: none"> ・K2タイプの廃止・X2タイプの導入(H21から実施) ●写真等の視覚素材の導入の促進(H21から実施) <p><今後検討を要する事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ●試験問題の適切な評価方法等についての検討 ●医療関係者以外、諸外国の資格試験の実施方法を参考にして議論を進めることが望ましい ●国家試験の諸課題に関する議論を継続していくことが必要

表2-1 保健師国家試験の変遷

回	第39回～第73回	第74回～第75回	第76回	第77回～第82回	第83回～第88回	第89回	第90回～第94回	第95回～
年	S45～S62	S63～H元	H2	H3～H8	H9～H14	H15	H16～H20	H21～
試験科目	5科目	5科目	5科目	4科目	3科目	3科目	3科目	3科目
	5問	5問	5問	5問	なし	なし	なし	なし
	50問	50問	75問	75問	75問	75問	75問	75問
主観	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
客観	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
状況設定	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
試験時間	3時間45分	3時間45分	3時間45分	3時間45分	2時間15分	2時間20分	2時間20分	2時間20分
年間試験実施回数	2回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
1回の試験日数	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日
試験時間割	午前	主観式	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式
	午後	客観式	客観式	主観式	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)
その他	客観式問題は 五肢択一	客観式問題は 四肢択一	客観式問題は 四肢択一					単純択一形式または 五肢複択形式

表2-2 助産師国家試験の変遷

回	第39回～第70回	第71回～第72回	第73回	第74回～第79回	第80回～第85回	第86回	第87回～第91回	第92回～
年	S47～S62	S63～H元	H2	H3～H8	H9～H14	H15	H16～H20	H21～
試験科目	6科目	6科目	6科目	8科目	4科目	4科目	4科目	4科目
	5問	5問	5問	5問	なし	なし	なし	なし
	50問	50問	75問	75問	75問	75問	75問	75問
試験方法	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
試験時間	3時間45分	3時間45分	3時間45分	3時間45分	2時間15分	2時間20分	2時間20分	2時間20分
年間試験実施回数	2回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
1回の試験日数	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日
試験時間割	午前	主観式	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式
	午後	客観式	客観式	主観式	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)
その他	客観式問題は 五肢択一	客観式問題は 四肢択一	客観式問題は 四肢択一					単純択一形式または 五肢択択形式 視覚素材

表2-3 看護師国家試験の変遷

回	第41回～第78回	第79回～第80回	第81回～第88回	第89回～第91回	第92回	第93回～第97回	第98回	第99回	第100回	第101回～
年	S46～H元	H2～H3	H4～H11	H12～H14	H15	H16～H20	H21	H22	H23	H24～
試験科目	専門基礎	8科目	10科目	3科目	3科目	3科目	3科目	3科目	3科目	3科目
	専門	4科目	5科目	7科目	7科目	7科目	7科目	7科目	7科目	8科目
試験方法	主観	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	客観	95問	150問	150問	150問	180問 (必修問題30問 含む)	180問 (必修問題30問 含む)	180問 (必修問題50問 含む)	180問 (必修問題50問 含む)	180問 (必修問題50問 含む)
試験時間	状況設定	60問	60問	60問	60問	60問	60問	60問	60問	60問
	試験時間	なし	4時間30分	4時間30分	4時間45分	5時間15分	5時間20分	5時間20分	5時間20分	5時間20分
年間試験実施回数	2回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
1回の試験日数	午前	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日	1日
	午後	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)
試験時間割	午後	客観式	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)	客観式(状況設定 含む)
	その他	客観式問題は五肢択一 男女選択(主観)問題を開始	客観式問題は四肢択一 新カリから男女選択問題を廃止	客観式問題は四肢択一 新カリから男女選択問題を廃止	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式	客観式問題は四肢択一 単択一形式または五肢複択形式
※客観式多肢選択問題										
新カリ・旧カリ問題あり										
EPAIによる看護師候補者への対応										

表3-1 保健師国家試験の試験科目の変遷

回	第1回～第38回	第39回～第76回	第77回～第82回	第83回～第98回	第99回
年	S27～S45	S45～H2	H3～H8	H9～H24	H25～
試験科目数	15科目	5科目	4科目	3科目	4科目
試験科目	公衆衛生及び予防学 厚生行政 社会統計 母性及び小児衛生 学校衛生 産業衛生 伝染性疾患予防 慢性疾患予防 公衆衛生看護の原理及び実際 公衆衛生看護 母性保健指導 乳幼児保健指導 学校保健指導 産業保健指導 伝染性疾患予防指導 慢性疾患保健指導 栄養	公衆衛生看護論 疫学 健康管理論 社会福祉・社会保障制度論 公衆衛生行政	公衆衛生看護学 疫学 健康管理論 保健福祉行政論	地域看護学 保健福祉行政論 疫学・保健統計	公衆衛生看護学 疫学 保健統計学 保健医療福祉行政論

表3-2 助産師国家試験の試験科目の変遷

回	第1回～第38回	第39回～第73回	第74回～第79回	第80回～
年	S27～S46	S47～H2	H3～H8	H9～
試験科目数	8科目	6科目	8科目	4科目
試験科目	産科学 新生児学 助産の原理と実際 助産倫理及び助産史 助産法 母性保健指導 乳児保健指導 母子衛生行政 栄養	母子保健概論 母子保健医学 助産論 助産業務管理 母子保健管理 地域母子保健	助産学概論 生殖の形態・機能 母性の心理・社会学 乳幼児の成長発達 助産診断学 助産技術学 地域母子保健 助産業務管理	基礎助産学 助産診断・技術学 地域母子保健 助産管理

表3-3 看護師国家試験の試験科目の変遷

回数	第1回～第3回	第4回～第40回	第41回～第80回	第81回～第88回	第89回～第100回	第101回～
年	S25～S27	S27～S45	S46～H3	H4～H11	H12～	H24～
試験科目数	5科目	6科目	8科目	10科目	3科目	3科目
専門基礎	11科目	13科目	4科目	5科目	7科目	8科目
試験科目	解剖生理学 細菌学 公衆衛生 栄養及び食餌療法 薬物及び調剤法	解剖生理 細菌学 衛生 個人衛生 公衆衛生概論 栄養(食餌療法を含む。) 薬理	解剖学 生理学 生化学(栄養学を含む。) 薬理学(薬剤学を含む。) 病理学 微生物学 公衆衛生学 社会福祉	解剖生理学 生化学 栄養学 薬理学 病理学 微生物学 公衆衛生学 社会福祉 関係法規 精神保健	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 社会保障制度と生活者の健康	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度
専門	看護学(理論及び実地) 看護史及び看護倫理 内科学及び看護法 外科学及び看護法 理学療法 伝染病学及び看護法 小児科学及び看護法 産婦人科学及び看護法 皮膚泌尿器科学及び看護法 眼科学及び耳鼻いんこう科学 精神病学及び精神衛生 職業的調整	看護学(倫理及び実地) 看護史 看護倫理 看護原理及び実際 公衆衛生看護概論 内科学及び看護法 外科学及び看護法 伝染病学及び看護法 小児科学及び看護法 産婦人科学及び看護法 精神病学及び看護法 眼科学、歯科学及び耳鼻咽喉科学 皮膚泌尿器科学 理学療法	看護学(衛生法規を含む。) 看護学総論 成人看護学 小児看護学 母性看護学	基礎看護学 成人看護学 老人看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	基礎看護学 在宅看護論 成人看護学 老人看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	基礎看護学 成人看護学 老人看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学 在宅看護論 看護の統合と実践